

技よりも人格

今

年の一月、東京で教え子達が同窓会を開いてくれました。青森では何度か開催していたのですが、東京では初めてでした。私が、東京に住まうようになり、東京近辺の同窓生達で東京開催を企画し、青森に居る同級生達も誘うことになったらしいのです。

一次会は、私が担任を持った教え子達が二十数人集まり、二次会是他クラスの同期生も集まって、総勢三十数人という大人数で本当に楽しく、六時間程が、あつと言う間に過ぎて行きました。中には三十年ぶりに再会した人もいて、一番最初に、高校時代の名前を聞くところから始まりました。しかし名前を聞いた途端に、高校生時代の顔が甦ってきて、まるで昔から今のような顔だったように思えるから不思議です。既に五十歳を過ぎた面々、それぞれに立派な大人になっていました。懐かしい思い出話や楽しい会話の中から、それぞれの人生を歩み、喜び、悲しみ、苦しみながらも、今この時を迎えていることを、心に沁みて感じる事が出来ました。一人一人を心から褒めたいと思えました。

この同窓会に集まった人達を教えた時、私はまだ三十代そこそこで、人間としても教師としても、まだまだ未熟な若造でした。年を重ねた今も未熟な私です。様々な思い出話が出てくる中で、当時の青臭い私がいかに思われ、集まってくれた皆さんにとっても済まない気持ちになりました。若い時分の私が、どんな教育が出来たのかと思うと、慚愧に堪えませんでした。それら全てを彼等彼女達は超えてくれていた事も知りませんでした。有り難さに深く頭の下がる思いです。

「教

育は百年の計」と言います。教育の成果は一朝一夕に現れるものではありません。小学6年間、中学3年間そして高校の3年間で教育の全ての成果が出る訳がありません。教科知識の習得は、

ある面、技の習得であると思います。社会人としての知識や教養は勿論のこと、良い成績をとる、少しでもレベルの高い所に進学する等、その目的を達成する為の技の獲得でもあると思います。そして、それらの技と共に、人格の形成も大人である教師に求められていると思います。

「技

よりも人格」こんな言葉を聞いたことがあります。技はないよ向上によって私達の生活は、とても便利になっています。様々な分野の技術の向上の最終目的は、幸せな人生を全うできるかどうかではないでしょうか。便利な生活によって幸せが近くなるかも知れませんが、生活が便利ならば幸せだとは限りません。ハイテクの技術に囲まれて、それを使いこなしている生活をしていながら、不幸せな人は一杯居ます。例えば、オフィスのOA化や工場のオートメーション化によって効率や格段に良くなっているのですが、果たして皆の生活が幸せになったかという点、それは疑問です。機械を使うのも人間、そして機械化された社会の中で幸せと感ずるのも人間の心です。

知

育、体育、徳育。この三者が一体となって人は育って行くものだと痛切に感じます。昨今、徳育に関する技術も色々取り沙汰されていますが、それらの知識は技の一つに過ぎません。徳育の要は人格だからこそ難しいのですが、だからこそ生身の人間が教師として子ども達に接する意味があるのだと思います。

教え子達が学校を巣立ち、各々の人生を歩んでいく中に教育の成果が滲み出てくるのではないのでしょうか。それが教育なのかも知れないと思うのです。

(元青森県立北斗高校校長)